

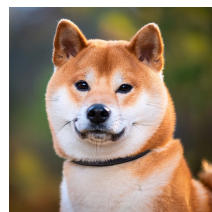
Adobe Photoshopの「画像を生成」で、 デザイン制作に役立つブラシ素材を生成 しよう

※画像使用についての注意事項 課題用に提供されているストック画像をワークショップ以外の用途に利用することを禁じます。

目次

STEP_1 8～10分

Photoshopの「画像を生成」とは



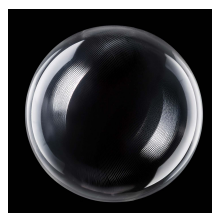
STEP_2 8～10分

雲の画像を生成してブラシを作成



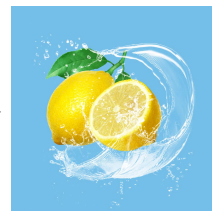
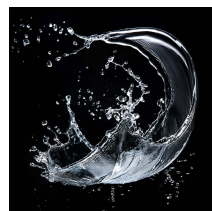
STEP_3 8～10分

泡の画像を生成してブラシを作成




STEP_4 8～10分

水飛沫の画像を生成してブラシを作成



Photoshop の「画像を生成」とは

 このステップで学べること：「画像を生成」の機能／基本操作

1-1 「画像を生成」とは

「画像を生成」は、Photoshop の生成 AI 機能のひとつで、プロンプトを入力することで、新しい画像を生成できる機能です。

空のキャンバスや既存のドキュメント上に、写真風・イラスト風・3D 風など、さまざまなスタイルのビジュアルを生成できます。



プロンプト：日本人の女性モデル
コンテンツタイプ：写真



プロンプト：日本人の女性モデル
コンテンツタイプ：アート



プロンプト：ガラス素材の薔薇、黒背景
コンテンツタイプ：写真

1-2 「画像を生成」を実際に使ってみよう_Part1

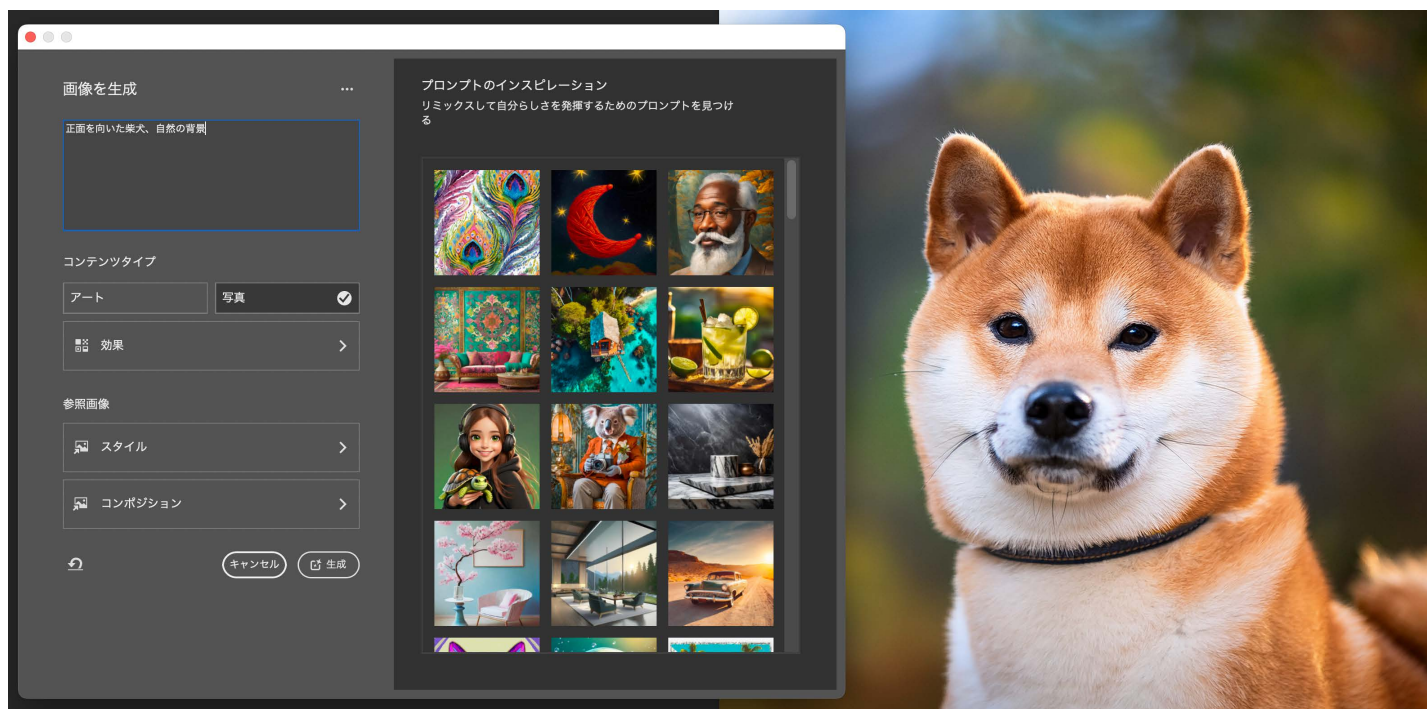
柴犬のリアルな写真を生成します。

- ①新規ファイルを作成（1500px の正方形）
- ②「画像を生成」の画面を開く

「画像を生成」は、以下のいずれかの方法で開くことができます。

- ・画面上部メニューの [編集] > [画像を生成]
- ・ツールバーの一番下の「画像を生成」アイコンをクリック
- ・コンテキストタスクバーから（※新規ファイルの場合のみ表示）

- ③プロンプトを入力「正面を向いた柴犬、自然の背景」
- ④コンテンツタイプを「写真」にして「生成」をクリック



ヒント

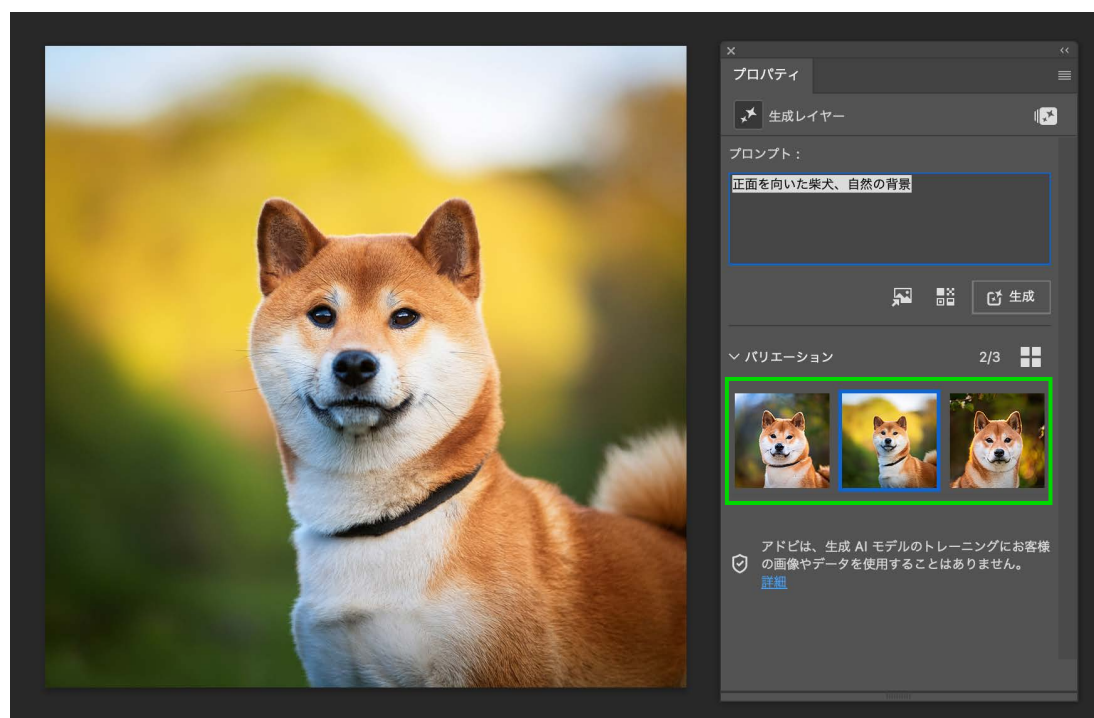
・コンテンツタイプ

生成する画像のスタイルの方向性を AI に伝える設定です。「アート」または「写真」のいずれかを選択できます。



写真：リアルな光や質感、写真らしいスタイルで生成
アート：イラスト的・グラフィック的で抽象的な仕上がりで生成

⑤ プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



類似を生成

「類似を生成」は、生成された画像に近いテイストで、別のバリエーションを作成できる機能です。

生成後に表示されるプロパティパネル内のバリエーションのサムネイル3点メニューから「類似を生成」を選ぶと、選択中の画像と似た雰囲気のパリエーションが3つ生成されます。

「少しだけ違うパターンを見たい」「このテイストで他の形も試したい」という時に活用できます。

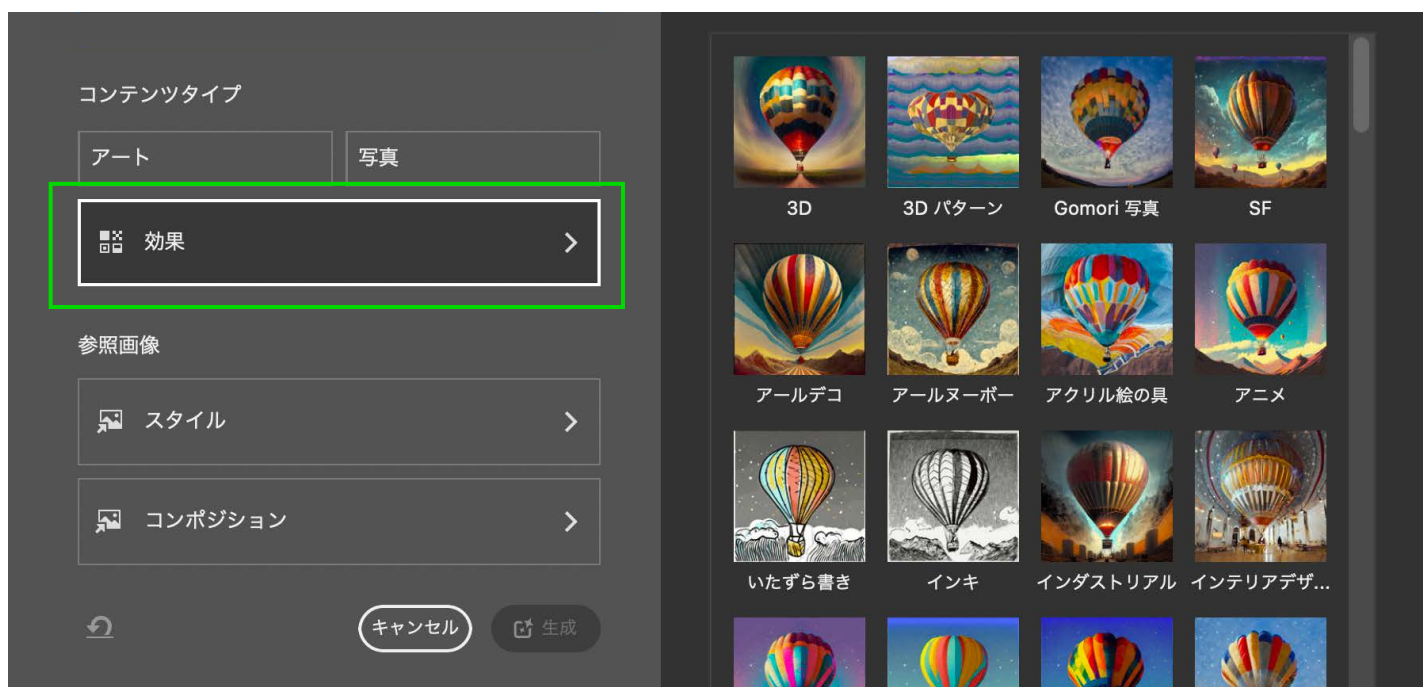


1-3 効果の設定

プロンプトに加えて、「効果」の設定を活用することで、生成されるビジュアルの方向性をより具体的にコントロールできます。

・効果

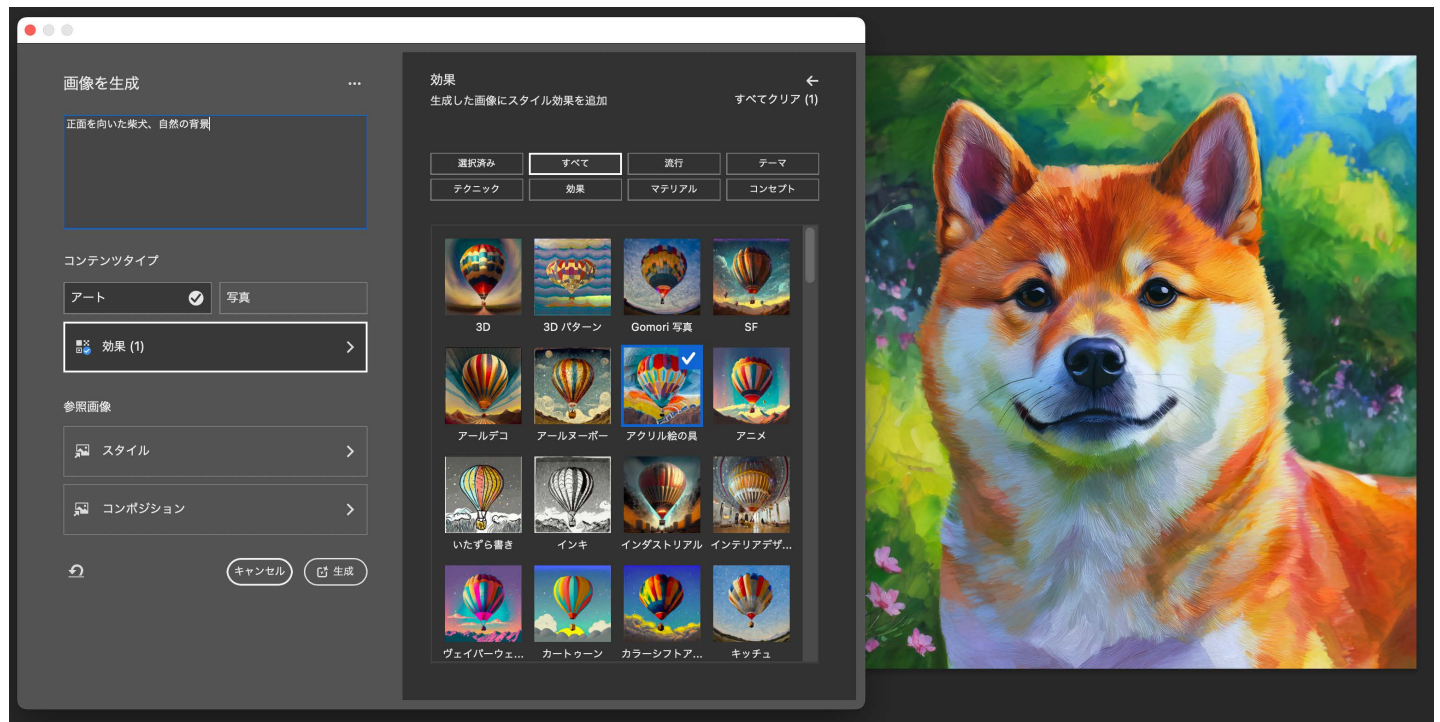
生成画像のテイストを指定できるスタイル設定です。数多くの効果プリセットが用意されています。



1-4 「画像を生成」を実際に使ってみよう_Part2

柴犬の絵画風のアート画像を生成します。

- ①「画像を生成」の画面を開く
- ②プロンプトを入力「正面を向いた柴犬、自然の背景」
- ③コンテンツタイプを「アート」にする
- ④効果「アクリル絵の具」を選択
- ⑤「生成」をクリック
- ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



1-5 参照画像の設定

画像を生成する際に、「スタイル」と「コンポジション」の設定も可能です。

・スタイル

画像の「色味」「質感」「線のタッチ」など、見た目の雰囲気指定できる設定です。

たとえば、参照画像がペンキ風なら、生成結果もがペンキ風に生成されます。用意されたギャラリーから指定することもできますし、画像（JPG/PNG）をアップロードして指定することも可能です。



・コンポジション

画像の「構図」や「レイアウト」を指定できる設定です。

用意されたギャラリーから選んだ画像、またはアップロードした画像（JPG/PNG）をもとに、類似の構成で新たな画像を生成できます。



コンポジションの使い方は
ステップ4で詳しく解説します。

STEP_2 8～10分

雲の画像を生成してブラシを作成



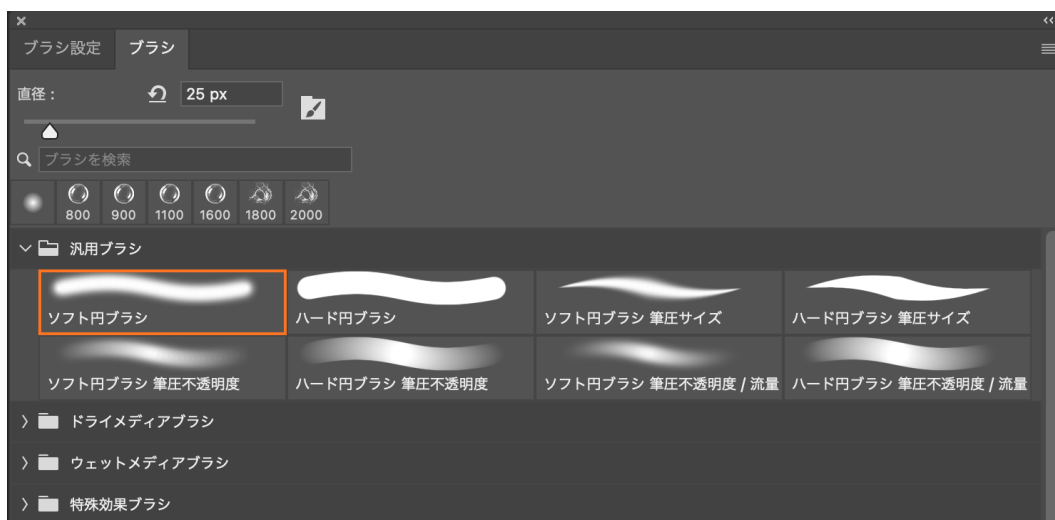
このステップで学べること：雲のブラシ素材に使う画像を生成する方法／ブラシの登録方法

「画像を生成」を活用すれば、オリジナルなブラシ素材を簡単に作ることができます。

2-1 Photoshop のブラシとは

Photoshop のブラシは、絵筆のようにフリーハンドで使える描画ツールで、線や模様を自由に描くことができます。デジタルペイント、レタッチ、デザイン装飾など、幅広い用途で活躍します。

Photoshop にはあらかじめ用意された多彩なブラシが収録されていますが、自分で画像を元にオリジナルブラシを登録することも可能です。

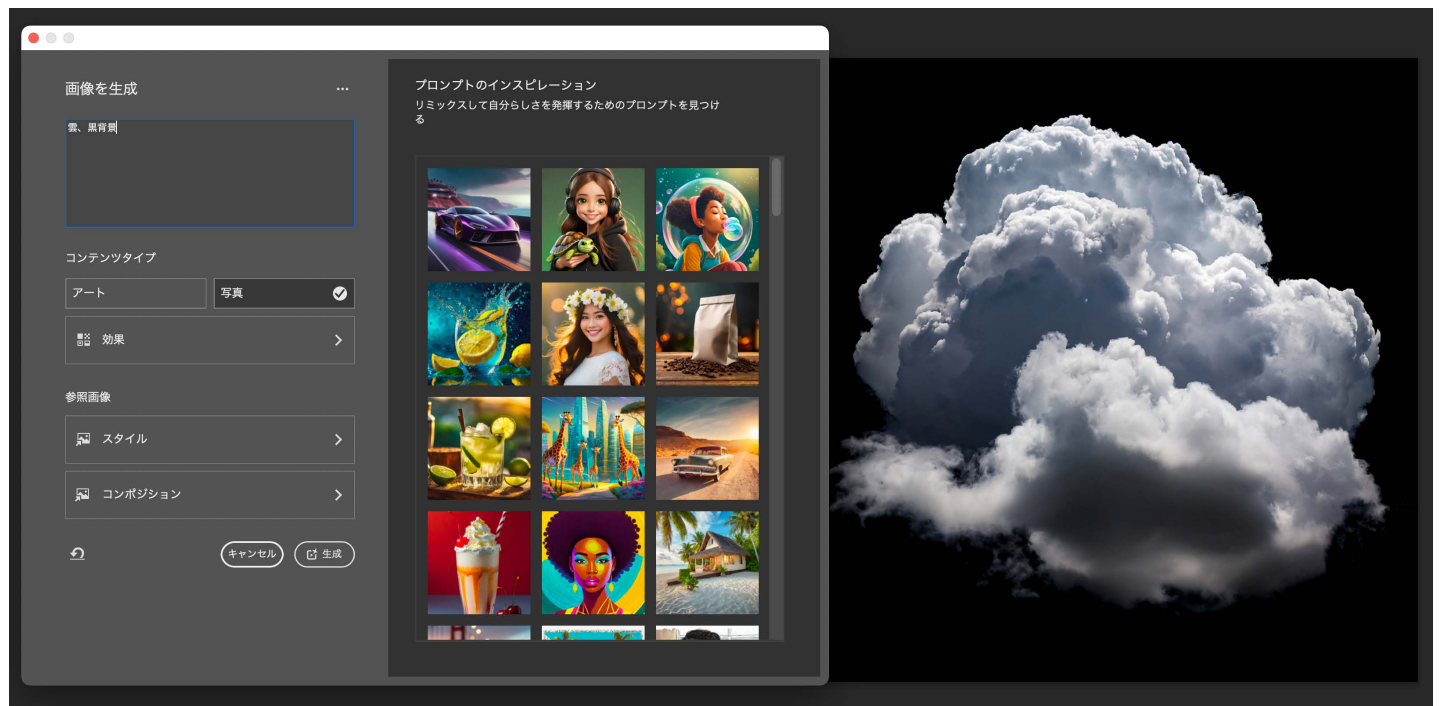


2-2 ブラシの素材となる「雲」の画像を生成しよう

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_step_2.psd を開く
- ②「画像を生成」の画面を開く
- ③プロンプトを入力「雲、黒背景」

ブラシとして白い部分だけを使うため、「黒背景」とプロンプトに入力しています。

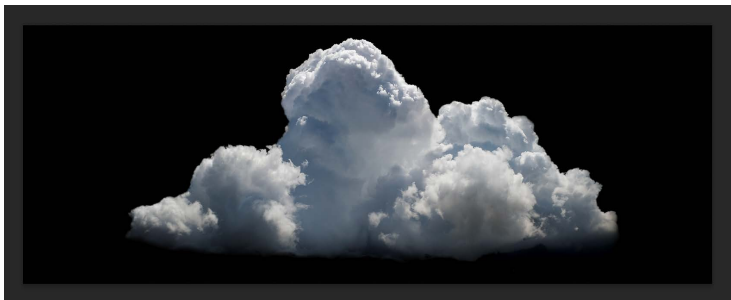
- ④コンテンツタイプを「写真」にする
- ⑤「生成」をクリック
- ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



画面内にしっかり収まっている雲を選びましょう。
一部が切れている雲だと、ブラシにしたときに不自然に見えることがあります。

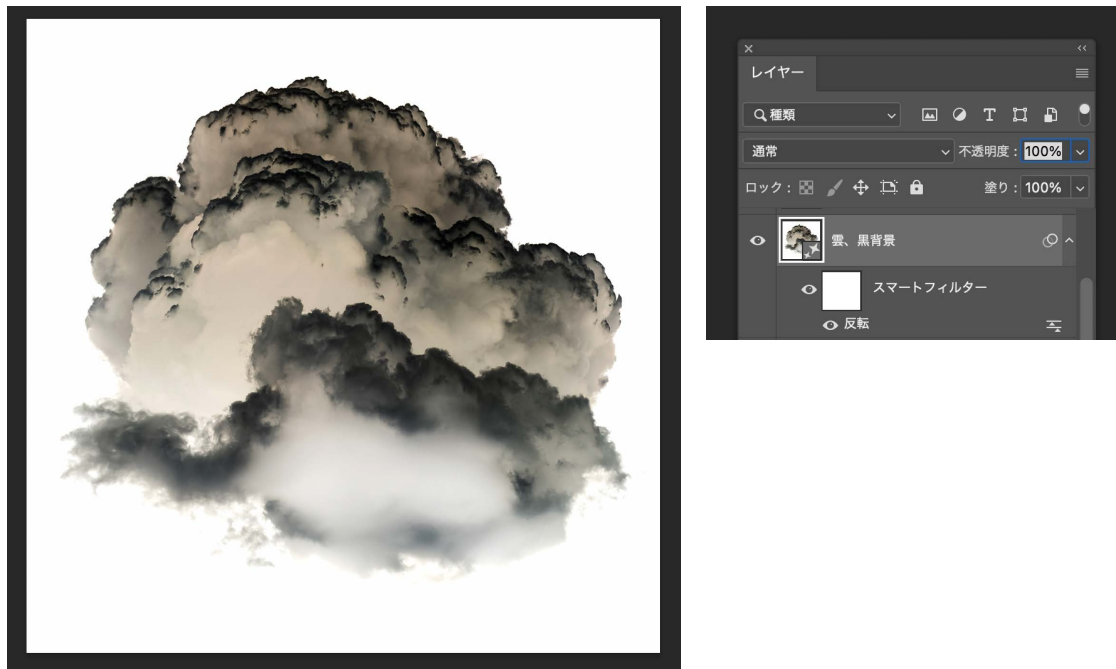
ヒント

細長い雲を作りたい場合は、アートボードのサイズを横長に変更しましょう。
生成される画像はアートボードの比率に影響を受けるため、サイズを調整することで理想の形に近づけやすくなります。

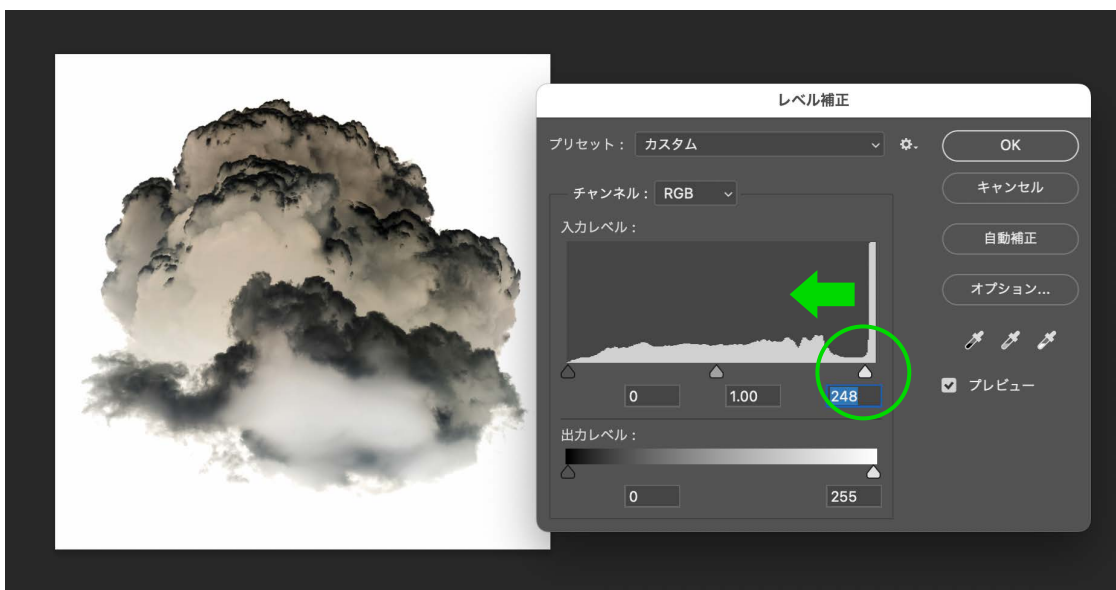


2-3 「雲」の画像をブラシに登録しよう

①画面上部のメニューから「イメージ」>「色調補正」>「階調の反転」



②背景が真っ白になっているか確認、なっていない場合はレベル補正で調整
画面上部のメニューから「イメージ」>「色調補正」>「レベル補正」



ヒント

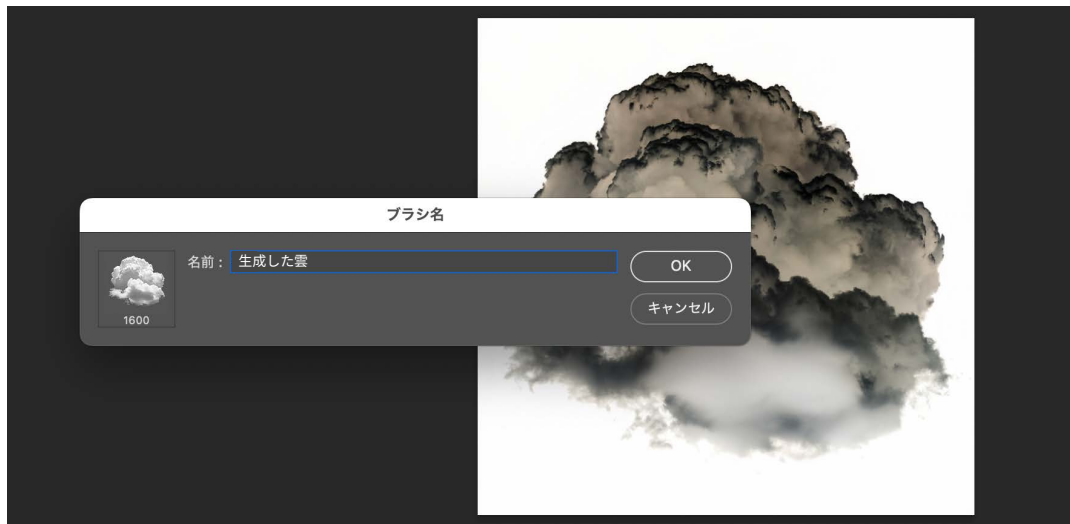
画像をブラシとして登録する際は、「黒い部分」がブラシの形として認識されます。

※ 白い部分は透明として扱われ、描画時には表示されません。

そのため、不要な背景や余白部分は白くしておく、きれいなブラシとして登録できます。

③画面上部のメニューから「編集」>「ブラシを定義」を選択

④名前を「生成した雲」にして OK をクリック



2-4 作ったブラシを使ってみよう

①レイヤーパネルから、生成した画像のレイヤーを非表示にする

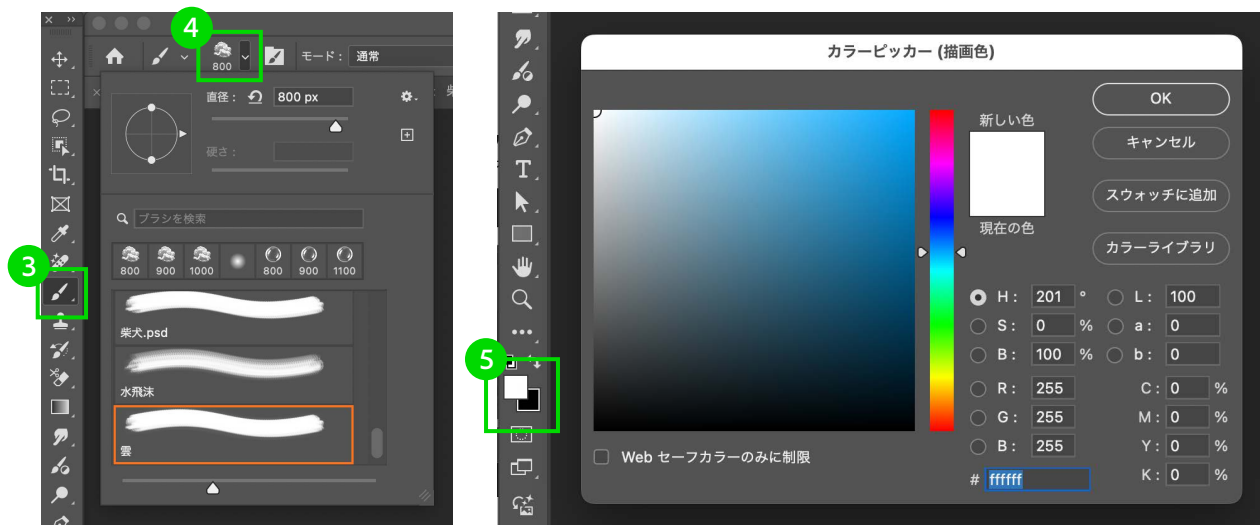
②デザインレイヤーを表示して、その上に新規レイヤーを作成（名前を「ブラシ」に設定）



③ ブラシツールに切り替える

④ オプションバーからブラシの種類を「生成した雲」にして、直径サイズを 800px にする

⑤ ツールバーの下から描画色を白にする




⑥ クリックで描画する

⑦ 薄くしたい場合はレイヤーパネルから「不透明度」を調整する

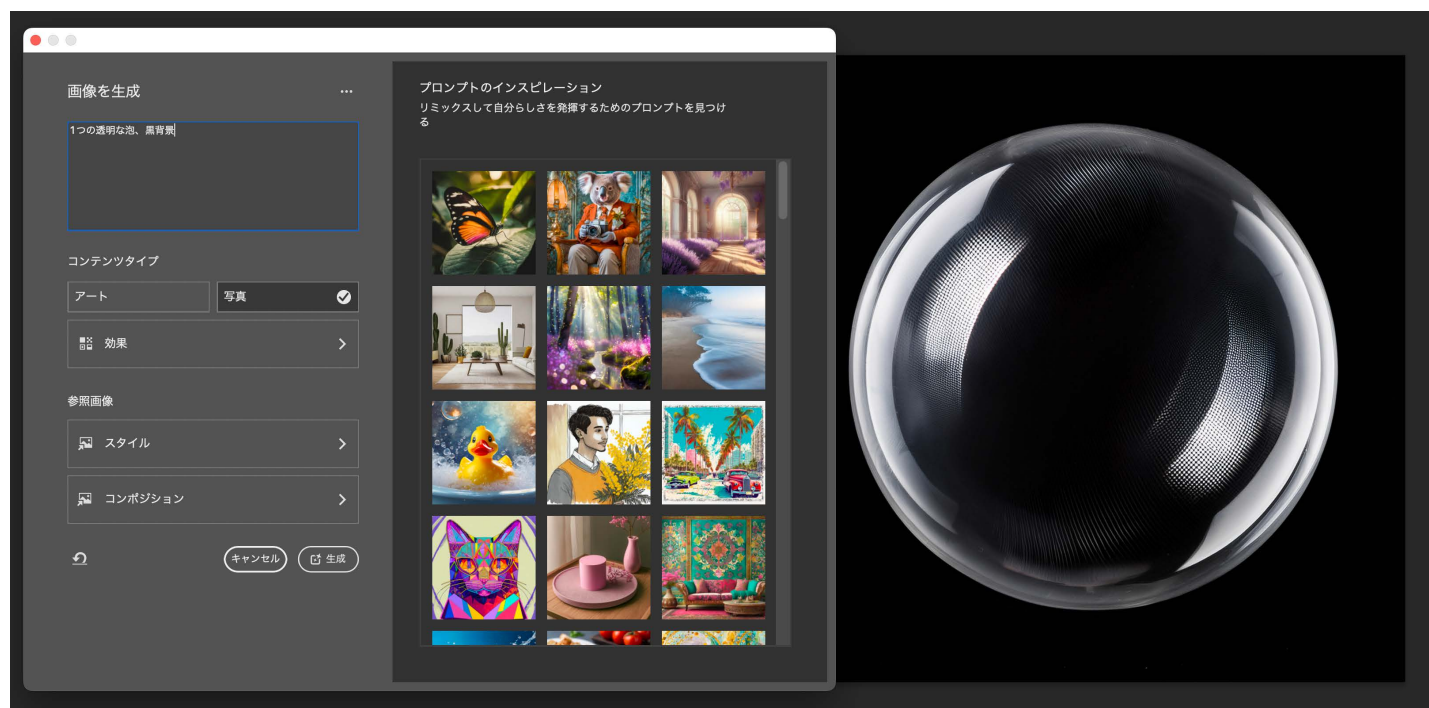


泡の画像を生成してブラシを作成

 このステップで学べること：泡のブラシの作り方 / 生成塗りつぶしを使う方法

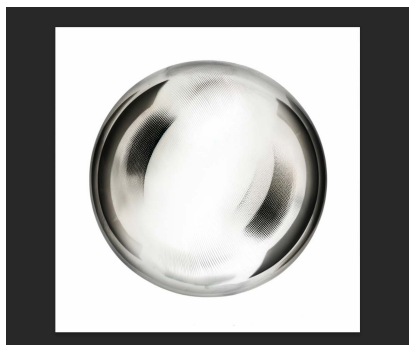
3-1 ブラシの素材となる「泡」の画像を生成しよう

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_step_3_1.psd を開く
- ②「画像を生成」の画面を開く
- ③プロンプトを入力「1つの透明な泡、黒背景」
- ④コンテンツタイプを「写真」にする
- ⑤「生成」をクリック
- ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



3-2 「泡」の画像をブラシに登録しよう

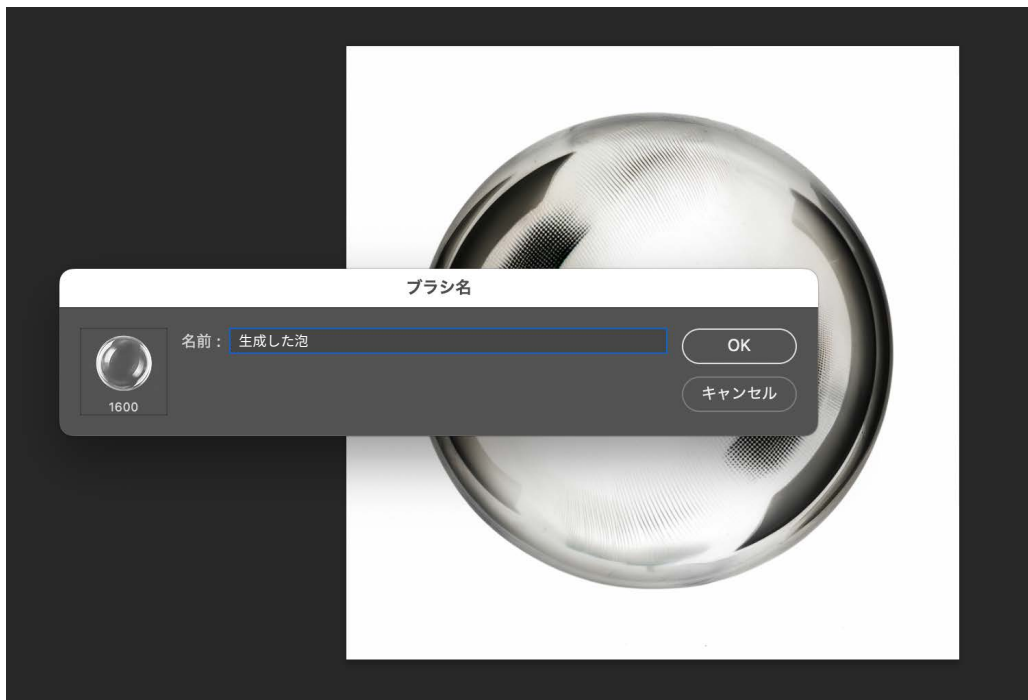
- ①画面上部のメニューから「イメージ」>「色調補正」>「階調の反転」



2-3 の工程同様に、背景が完全に白になっていない場合は、レベル補正で調整しましょう。

③画面上部のメニューから「編集」>「ブラシを定義」を選択

④名前を「生成した泡」にして OK をクリック



3-3 作ったブラシを使ってみよう

①レイヤーパネルから、生成した画像のレイヤーを非表示にする

②デザインレイヤーを表示して、その上に新規レイヤーを作成（名前を「ブラシ」に設定）



- ③ ブラシツールに切り替える
- ④ オプションバーからブラシの種類を「生成した泡」にして、直径サイズを 800px にする
- ⑤ ツールバーの下から描画色を白にする
- ⑥ クリックで描画する



- ⑦ サイズを小さくして 3~4 つクリックで描画する



今回は、同じブラシレイヤー上に複数のサイズ違いの泡を描いていますが、1つずつ別のレイヤーに分けて描画しておくと、後から位置やサイズの調整がしやすくなります。

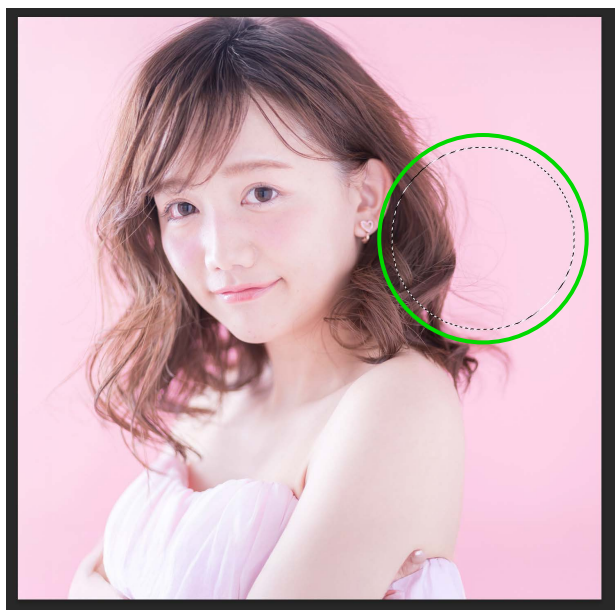
3-4 生成塗りつぶしを使って表現してみよう

泡やガラスのように透明感のある装飾は、「生成塗りつぶし」を使って表現することも可能です。

「生成塗りつぶし」は Photoshop の生成 AI 機能のひとつで、指定した領域内にプロンプトに応じた要素を生成できる機能です。ブラシのように細かくサイズや透明度を調整することはできませんが、映り込みや背景の歪みなどは、生成塗りつぶしのほうがよりリアルに描写されることがあります。用途に応じて、ブラシと生成塗りつぶしを使い分けるのがおすすめです。

①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_step_3_2.psd を開く

②楕円形選択ツールに切り替えて、髪の毛の上に重なるように shift キーを押しながら正円の選択範囲を作成



③コンテキストタスクバーから、「生成塗りつぶし」をクリック

④プロンプトを入力「透明な1つの丸いガラス玉」して、「生成」をクリック



⑤プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



構図を指定して水飛沫の画像を生成してブラシを作成



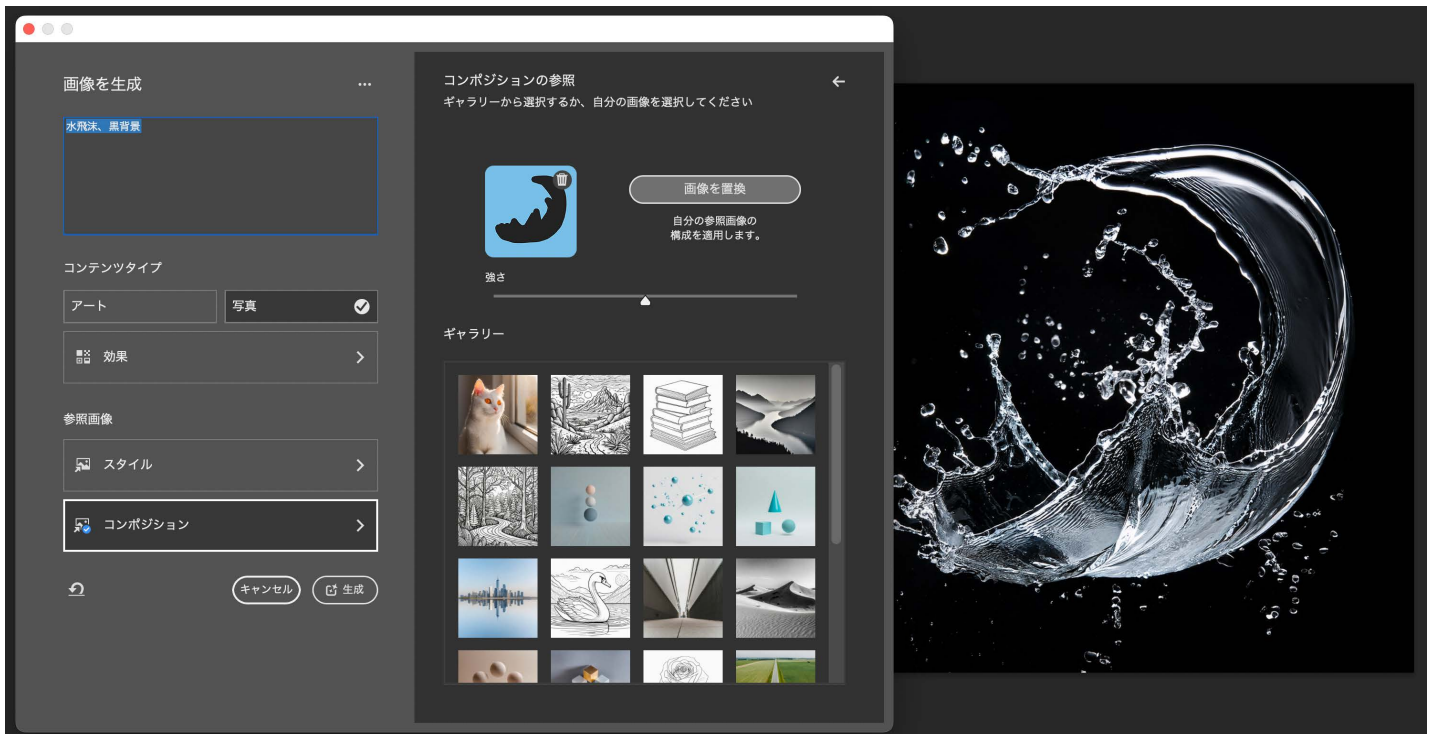
このステップで学べること：水飛沫のブラシの作り方 / 構図を指定する方法

コンポジション機能を使えば、水飛沫の構図を指定して生成することができます。あらかじめ「どんな形の水飛沫にしたいか」をラフで描いておくことで、その構図をもとにAIがイメージに沿った素材を生成してくれます。

4-1 ブラシの素材となる「水飛沫」の画像を生成しよう

通常は自分でラフ画像を描いて構図を指定しますが、今回はあらかじめ用意した画像を使って、コンポジション機能の使い方を試してみましょう。

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_step_4.psd を開く
- ②「画像を生成」の画面を開く
- ③プロンプトを入力「水飛沫、黒背景」
- ④コンテンツタイプを「写真」にする
- ⑤コンポジションから「画像を選択」のボタンをクリックし、ワークショップキットから「ラフ画.jpg」を選択
- ⑥コンポジションの「強さ」を「中」にして「生成」をクリック
- ⑦プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



コンポジションの「強さ」は、参照画像の構図をどれだけ忠実に反映するかを決める設定です。強く設定すると画像に近い構図で生成され、弱くするとラフな形をベースにAIが自由に解釈して生成されます。用途に応じて調整してみましょう。

自分で水飛沫のラフ画を作成する方法

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_step_4.psd を開く
- ②ブラシツールに切り替えて、汎用ブラシの「ハード円ブラシ（直径：100px、硬さ：100%）」に設定
- ③ツールバーの下から描画色を黒にする
- ④ラフ画レイヤーを作成し、下の画像を参考にしながら、理想の水飛沫の形をざっくりと描写

ドラッグでおおまかな構図を描くイメージで OK です。



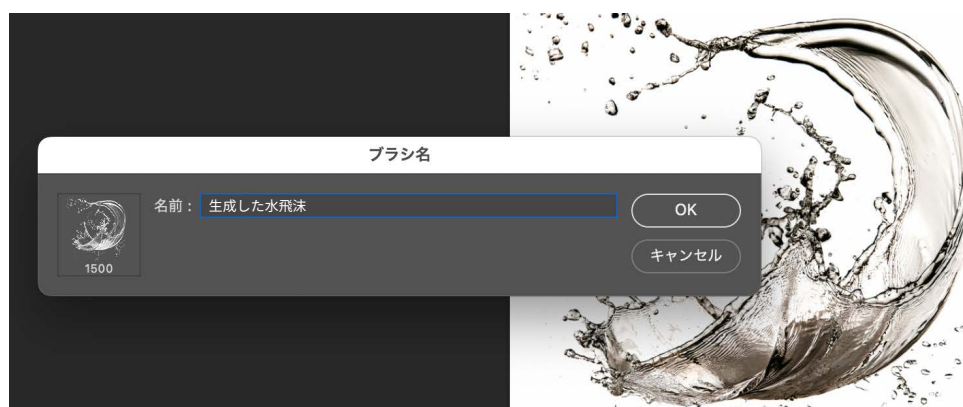
- ⑤レモンレイヤーを非表示にして、制作したラフ画像を JPEG 画像に書き出す
名前は分かりやすく「ラフ画」にしましょう。



4-2 「水飛沫」の画像をブラシに登録しよう

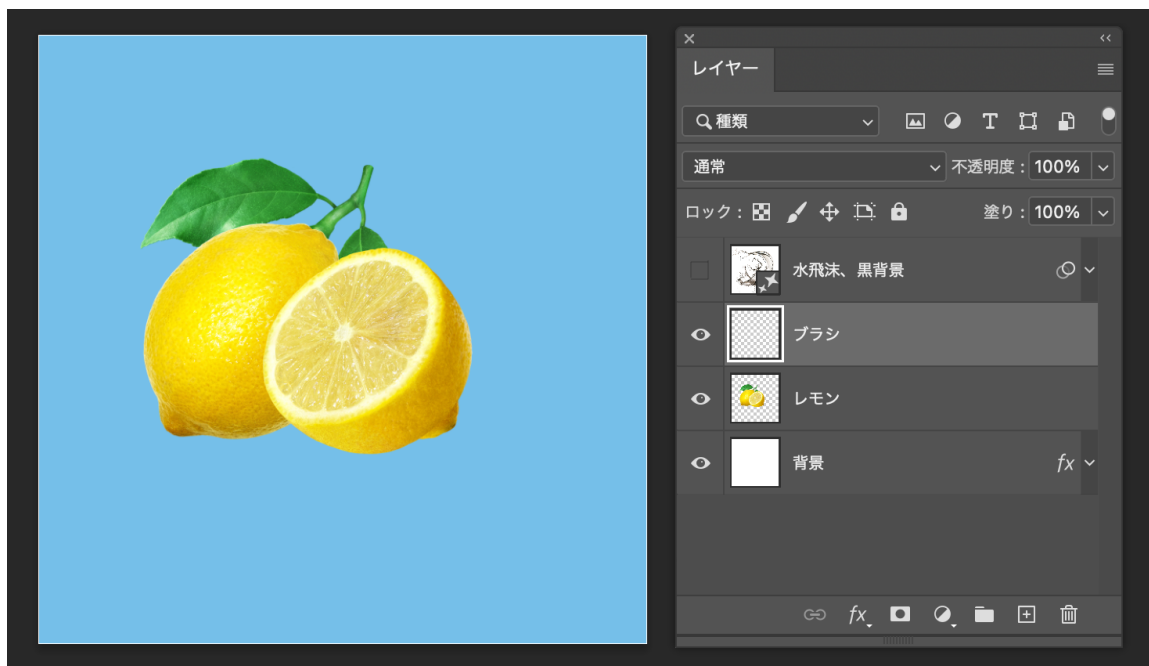
- ①画面上部のメニューから「イメージ」>「色調補正」>「階調の反転」
- ③画面上部のメニューから「編集」>「ブラシを定義」を選択
- ④名前を「生成した水飛沫」にして OK をクリック

2-3 の工程同様に、背景が完全に白になっていない場合は、レベル補正で調整しましょう。



4-3 作ったブラシを使ってみよう

- ①レイヤーパネルから、生成した画像のレイヤーを非表示にする
- ②レモンレイヤーを表示して、その上に新規レイヤーを作成（名前を「ブラシ」に設定）



- ③ブラシツールに切り替える
- ④オプションバーからブラシの種類を「生成した水飛沫」にして、直径サイズを 1300px にする
- ⑤ツールバーの下から描画色を白にする
- ⑥クリックで描画する

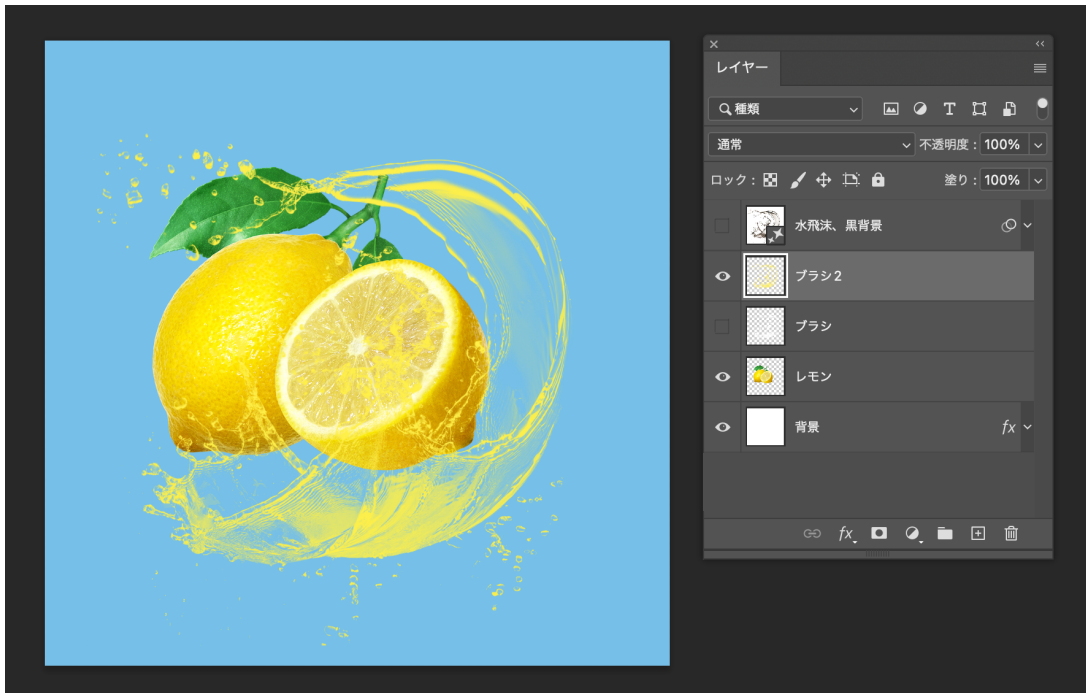


4-4 ブラシの色を変更して使ってみよう

Photoshop のブラシには、サイズや透明度を自由に調整できるなど多くのメリットがありますが、その中でも特に便利なのが、描画時に自由に色を変更できる点です。

たとえば、同じ水飛沫ブラシでも、色を変えるだけで印象を大きく変えることができます。

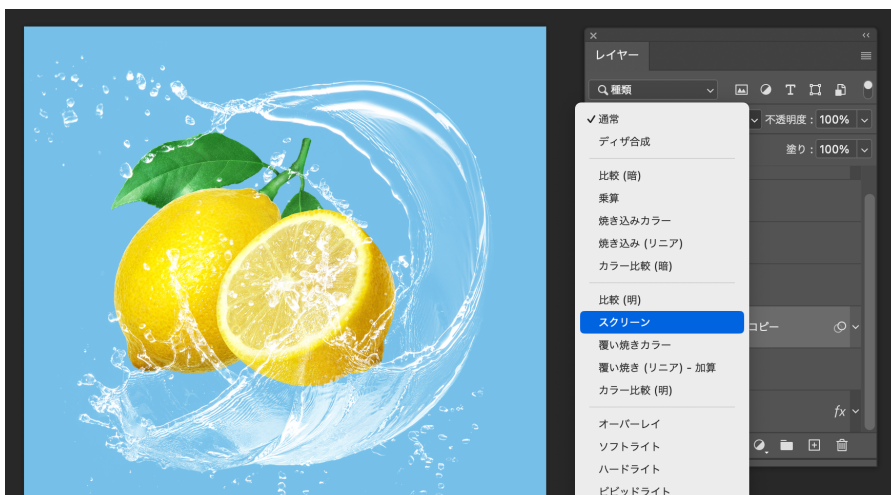
- ① ブラシレイヤーを非表示にして、その上に新規レイヤーを作成（名前を「ブラシ 2」に設定）
- ② ツールバーの下から描画色を黄色（#fff049）にする
- ⑥ クリックで描画する



ヒント

黒背景の水飛沫画像は、レイヤーパネルで描画モードを「スクリーン」に変更するだけでも、背景が抜けて透明な水飛沫として表現できます。

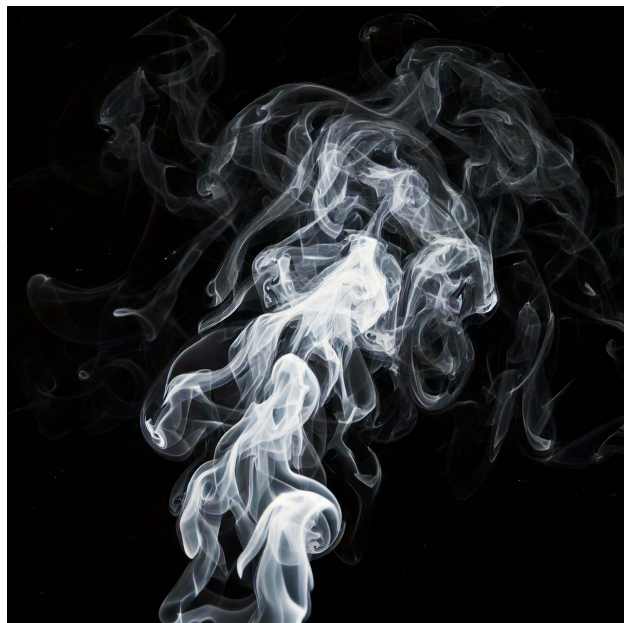
ただし、色を自由に変えたい場合や、繰り返し使いたい場合は、ブラシとして登録しておく方が便利です。



他のブラシの例

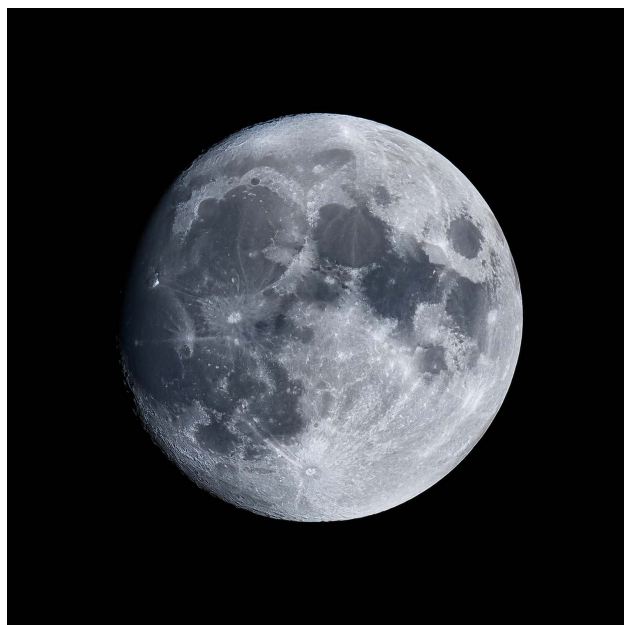
今回は3種類のブラシ作成方法を紹介しましたが、アイデア次第でさまざまなオリジナルブラシを生成できます。

湯気のブラシ



プロンプト : 白い煙、黒背景

月のブラシ



プロンプト : 満月、黒背景